

に参加してくれました。骨形成不全症の人であれば、もちろん全盲のひともしれば、ベーチェット病の人もしれば、癌の人もし。それから、登校拒否の子どももいました。

とっちゃんは亡くなられたのですが、そのことはラジオでも言いましたし、新聞でもテレビでも報道してくれ、告別式のときは寒い日でしたが200人以上の人が集まり

ました。

あの番組を通して知り合った障害のある人たちとのつきあいが、今でも続いているという感じですが、自然に自分と同世代の人間が困っていたから、よしやろうと思っただけで、よしが今につながっている、あまり障害のある人のためにということとは思ったことはなかったですね。

大和田さんが体験した 東日本大震災と障害者

大和田 3月11日は仕事で歌謡ショーの司会をやっていました。ホテルの地下3階でしたが天井が動きまわりました。シャンデリアが天井にぶつかってバーンバーンと落ちてくるんですね。

どんな放送局でも「揺れ始めて1分で揺れはおさまります」というのが放送局のマニュアルなんです。ところが3月11日は2分25秒揺れていたんですね。本震2分

25秒、そのあと余震もあったので10分揺れていたという方もいるんです。

雪が降っていたので寒い寒いってお客さんがおっしゃっていました。水道管全部が破裂しているの

で部屋の中は滝の状態です。われわれもホテルからラジオ福島スタジオに戻り、わたしは夕方6時から次の朝の6時まで12時間しゃべりっぱなしでした。でも

12時間しゃべった思いはないですね。とにかく来る情報来る情報、もう流していくしかない。消防とか警察、行政からの情報もありますが、一番われわれが頼りにしていた情報は、ラジオを聴いていた人からのツイッターでしたね。これはすごかったです。

今あなたがいるところは、どういう状況ですか？今あなたがいるところの道路の状況はどうですか？ガソリンスタンドはやっているところはありますか？ラジオで呼びかけてラジオ福島ツイッターに送ってくれと。

一日何千と来ていましたから。結局その情報が正しいかどうかというの、電話もつながらない状況の中でどうやって判断していくのか。

来年がラジオ福島の開局60周年なんです。その時われわれが出した結論は、われわれ60年間やってきたことをふり返って、「この未曾有の震災があって、みんな正しい情報を欲しがっているときに、嘘の情報を流してくる人がいるのだろうか。われわれはラジオを聞

いてくれている人と60年の間に信頼でつながってきた。それしかないだろう」という結論をつけました。

いのちを繋ぐ薬

わたしがやっていてまず考えたのが薬です。郡山のある奥さんから「重い心臓病の小学校2年生の娘の薬が2日で切れてしまう。病院も薬局もやっていない。ガソリンもない。このままだと死んでしまう。特殊な病気なんだ。なんとかこの薬を処方してくれる病院、薬局ありませんか」という連絡が来ました。それを放送で流したんですね。病院からも情報が来るんですけれど、いま開けられる状況ではない。

すると、その薬と同じ薬をもっているという同じ郡山の方から情報が入ったんですね。でもガソリンがなくて持っていけない。それもある男性から、「わたしガソリンがあるから持って行きます」と連絡がきました。

その時もこれ本当なのかと、わ